（公財）長野県長寿社会開発センター長野地区賛助会報　　令和４年３月 15 日

会報 ながの
62号
デザイン 池田満寿夫

発行人　荒井 公
編集長　井澤一幸

２月末現在賛助会員数　長野地区　　420 人　　県全体　　1,753 人

コロナ禍

オンライン交流会に賛助会員が参加

コロナが発生して 2 年が過ぎ、この間にみんな我慢の生活を強いられました。生活が大きく変わり人との交流が制限され、悶々とした気持ちの中、生まれた「オンライン交流」が各方面に広がりをみせました。

長寿社会開発センター長野支部でも今までに長野県立大学の学生・屋代小学校の児童とのオンライン交流会が実施されました。交流会には賛助会員４名が参加し、画面越しで子供達の元気な姿にパワーを感じ、我々シニア世代は戸惑いながら、脳の活性と世代の違った人との会話を楽しみました。

今後も、機会があるごとに参加したいとの声がありました。

屋代小学校の授業

「SDGsってご存じですか」・

『誰一人取り残されない世界を目指して』17 の目標

SDG s という言葉を聞いたことはあっても、内容まで知っている人は少ないのでは。これは 2015 年国連サミットで加盟国の全会一致で採択された、2030 年までに達成すべき 17 のゴール・169 のターゲットから構成されたもので『誰一人取り残されない理念と世界の人が「私って幸せだ」』と思える社会を作る壮大な達成目標です。

“このままでは地球がもたない”と、特に今注目されているのが、13 番目「気候変動に具体的な対策を」で、今後 10 年の間に一人一人が行動に移さないと、地球の運命の分かれ道が迫っていると言われています。私たちシニア世代は次世代を担う子供たちを守るために、SDGs を知り身近なことから行動しましょう。細かな内容は以下の通りです。

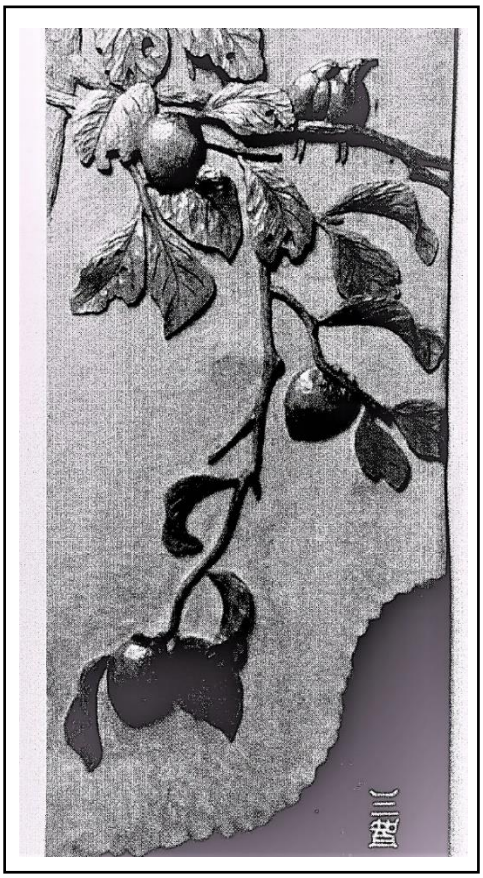
1	**貧困をなくそう（世界の10人に１人が貧困）** あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる	10	**人や国の不平等をなくそう** 各国国内及び各国間の不平等を是正する
2	**飢餓をゼロに（９人に１人が飢餓）** 飢餓を終わらせ、食糧安全保障・・農業の促進	11	**住つづけられる町づくりを** 安全かつ強靭な都市及び人間居住を実現する
3	**すべての人に健康と福祉を** あらゆる年齢の健康的な生活を確保し福祉を促進する	12	**つくる責任つかう責任** 持続可能な生産消費形態を確保する
4	**質の高い教育をみんなに** すべての人々への公正な質の高い教育を促進	13	**気候変動に具体的な対策を** 気候変動及びその影響を軽減するため緊急対策を
5	**ジェンダー平等を実現しよう** ジェンダー平等と、女性及び女児の能力強化を	14	**海の豊かさを守ろう** 海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
6	**安全な水とトイレを世界中に** すべての人々の水と衛生の利用可能な管理を	15	**陸の豊かさを守ろう** 陸域生態系の保護・回復利用の促進森林の経営 砂漠化への対処、土地の劣化の阻止・回復
7	**エネルギーをみんなにそしてクリーンに** すべての人の安価かつ信頼できるエネルギー確保		
8	**働きがいも経済成長も** 経済成長及び人々の安全と雇用と働きがいを	16	**平和と公正をすべての人に** 開発のための平和な社会を促進し、すべての人に 司法へのアクセスを提供し説明責任を構築する
9	**産業と技術革新の基盤をつくろう** 強靭なインフラ構築、包括的な産業の促進	17	**パートナーシップで目標を達成しよう** 開発の為の実施手段を強化し、パートナーシップの活性化

17 のゴール

シンボルマーク

コロナ禍 賛助会活動報告

長引くコロナ禍の中シニア世代は今じっと我慢し、不安な毎日を過ごしています。賛助会活動が地区公民館・公共施設が休館状態で活動の場を失い、休止が続く中、工夫をこらして活動しているいくつかのグループを紹介します。

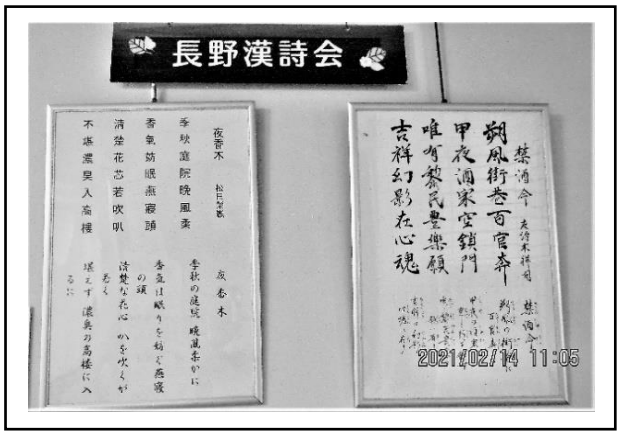


「木つつき会」黒岩さんの作品

展示用看板を「木つつき会」グループ長黒岩さんのご厚意で作成していただきました。
県長野合同庁舎一階ロビーに展示中です。

シニア大との給食交流会（オンライン）に「スマイル・リフレ」も参加

オンライン交流に「IT・S の会」が出席



県長野合同庁舎一階ロビー展示「漢詩会」作品

グループ活動紹介

昼の休憩時間
漬物等で一時の安らぎ時間を楽しむ

和紙絵画の魅力に集う

和紙ちぎり絵「あじさいの会」　グループ長 石井 惇子

私たちの会は平成16年ごろに、鈴木はる先生が立ち上げた会です。先生が一生懸命に指導してくださり、現在に至っています。和紙を使って、はがき・色紙・大きいものは45センチ×42センチ以上の大きなものもあります。教材に下絵を描き、和紙を見本どおり手でちぎり、のりをつけて貼り付け作品を仕上げます。手先を動かすことにより脳の働きが良くなります。作品の和紙によっては、ちぎりやすいもの、そうでないものもありますが、一生懸命に取り組んだことで、出来上がった時の喜びはひとしおです。

この会は、毎月第一水曜日の午前10時から昼を挟み午後まで。昼には、それぞれが手作りの漬物・惣菜・菓子・フルーツなどを持ち寄って、その時々の話題や料理のレシピなどの話題でにぎやかに楽しく過ごし、午後の作品作りに励みます。

去年シニア大生への賛助会紹介の時、一人の学生が「あら懐かしい、お母さんが長年ちぎり絵に励んでいました」と、声をかけてくれました。長く続けていると温かい気持ちになれる時があるのだと気づきました。

コロナが治まり楽しく活動ができる日を待っています。興味のある方はお気軽にお立ち寄り下さい、お待ちしています。